

## 15. 教育学研究科

(1) 教育学研究科の教育目的と特徴	15-2
(2) 「教育の水準」の分析	15-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	15-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	15-12
【参考】データ分析集 指標一覧	15-16

## (1) 教育学研究科の教育目的と特徴

### 1 教育学研究科の理念・目標、教育目的又は教育目標

大学院教育学研究科は、「学び」を鍵概念として、20世紀の教育諸科学研究と教員養成を見直しながら、理論と実践を統合した21世紀にふさわしい新たな教育諸科学の学問体系を確立することを目指しており、具体的には次の目標を掲げている。

1) 「学び」という人間の本質的な営みを鍵概念として、豊かな生涯学習社会を導く教育諸科学の先端的研究を推進する。

2) 理論的研究と実践的研究を統合することによって、21世紀を切り開く新たな

な

教育諸科学の学問体系を構築する。

3) 幼児から老年にいたるまでの教育、学習、人間発達にかかわる諸課題を総合的・学際的に研究し、現代社会のニーズに応える。

そのため、専門職学位課程（教職大学院）1専攻、博士課程前期の6専攻、博士課程後期の1専攻（6分野（17領域））のそれぞれで、教育にかかわる現代的諸課題に強い関心と深い理解を持ち、将来、高度専門職業人又は研究者として、高度な専門的知識とスキルに基づいてさまざまな領域における教育的課題を解決することにより、人類の未来を創造することを目指す意欲のある学生を求める。

### 2 教育学研究科の特徴

大学院教育学研究科は、1949年に設置された新制広島大学教育学部を基礎として1953年に設置された大学院旧教育学研究科を起源とする。当初は教育学、教育行政学、実験心理学、教育心理学の修士課程、博士課程が置かれ、1966年に教科教育学を加え、1975年にこれら5専攻を博士課程（前期、後期）に改組した。その後、幼児学、日本語教育学、学習開発の各専攻が設置された。

2000年に、博士課程を持つ大学院教育学研究科と修士課程の大学院学校教育研究科を改組・統合して、前期8専攻、後期3専攻からなる大学院教育学研究科が設置され、2016年には、専門職学位課程（教職大学院）1専攻、博士課程前期6専攻、博士課程後期1専攻（6分野（17領域））に改組し、現在に至っている。

このような沿革を踏まえ、上記の目的を達成するため、本研究科のカリキュラム、指導体制、育成する人材像は、次のような特徴を持っている。

1) 大講座制によって、学生の希望や社会の変化に弾力的に対応できる現代的で多様な教育課程を編成している。

2) 複数の指導教員体制によって、総合的・学際的な研究指導や学生の個性を生かしたきめ細かな研究指導を行っている。

3) 幼児教育、初等教育、中等教育、高等教育、そして生涯学習等の場において、先導的な役割を果たしうる幅広い学識と高度な専門性を有した研究者・教育者を養成している。

## (2) 「教育の水準」の分析

### 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

#### <必須記載項目1 学位授与方針>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 6515-i1-1）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 公式ホームページを通して、各専攻・専修がそれぞれの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を開示し、社会や企業に対して積極的に発信している。各プログラムのディプロマ・ポリシーでは、育成すべき人材像や資質能力を示している。このポリシーに基づき到達目標型のカリキュラムが設定されている。
- 具体的な学位の評価基準や論文作成スケジュール等について、学生便覧に「広島大学大学院教育学研究科学位授与の判定基準及び学位論文の評価基準」、「博士課程前期及び専門職学位課程における修士論文・課題研究報告書取扱要項」、「博士課程後期の研究スケジュール（指針）」として開示している。  
(別添資料 6515-i1-2～4)

#### <必須記載項目2 教育課程方針>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 6515-i2-1）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 教育学研究科の各専攻・専修は、それぞれが掲げる到達目標を実現させるために、公式ホームページを通して教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を開示し、体系的なカリキュラムを構築し、社会や企業に対して積極的に発信している。
- カリキュラム・ポリシー及び、それに基づくカリキュラム、科目シラバス等は、毎年度専攻、専修の教員会において、カリキュラム・ポリシーに掲げた達成目標に照らして、評価、改善が行われている。

＜必須記載項目3 教育課程の編成，授業科目の内容＞

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料（別添資料 6515-i3-1）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料（別添資料 6515-i3-2）
- ・ 研究指導，学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（別添資料 6515-i3-3）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

博士課程前期

- 各専攻・専修は，それぞれの教育目標の達成のために，明確な到達目標を掲げてそれを達成するための到達目標型の体系的なカリキュラムを編成している。[3.1]
- 2016年度の教育学研究科の改組により，中等教育に関わる旧来の教育学研究科（博士課程前期）の科学文化教育学・言語文化教育学・生涯活動教育学の3専攻を10の専修から構成される教科教育学専攻として統合した。この統合を機に，異教科間で協働できる教員の育成を目標の1つに掲げ，「知の革新・創造」，「授業実践力」を育成する4つの専攻共通科目を開設した。これらの科目により，教科担当がそれぞれの教科を担当して教育を行う中学校や高等学校において他教科の教員と協働して教育改善ができる実践者や，そのような実践者を支援できる研究者の育成を目指している。[3.2, 3.3, 3.5]（別添資料 6515-i3-4）

博士課程後期

- 博士課程後期では，専門分野別のカリキュラムに加えて，教員養成プレFDとして，キャリア開発のための選択科目を開設している。博士課程後期修了生は，初等中等教育実践の現場に赴く者もあるが，その多くは大学教員の職を得て，教職や教科内容に関わる科目の担当者として教員養成に関わるか，教科教育学や教育学，教職系の心理学の研究に従事する。そこで，キャリア形成に関わる科目として，「大学教授学講究」，「教職授業学講究」，「教職授業プラクティカム」等の科目を設けている。これらの科目では，学部の教員養成系科目の授業補助や授業の立案や運営に関わることなどを通して大学教員としての実践力の育成が図られている。[3.5]

グローバル教員養成プログラム

- 教育学研究科では，グローバル社会に必要とされる資質や能力を身に付けさせる指導力を持った教員を養成するため，2016年4月に博士課程前期「グローバル教員養成プログラム」を開設した。本プログラムは学位プログラムとは独立しており，教育学部で開設されている「グローバル教員養成特定プログラム」を更に発展させたものとして位置付けられ，小学校・中学校・高等学校などの教員養成（専修免許の取得等）を土台とし，さらに国際バカロレア認定校やインターナショナルスクールの教員に求められる資質や能力を育成することを目指している。すべての授業で英語を取り入れ，日本語と英語

## 広島大学教育学研究科

のバランスのとれた運用能力の向上を図っている。[3.2, 3.5] (別添資料 6515-i3-5)

### 公認心理師養成

- 心理学専攻では、2015年9月公布、2017年9月施行となった公認心理師法に定められた公認心理師国家試験受験資格取得のために大学院において履修することが必要な講義、実習のすべてを体系的に履修できるカリキュラムを2018年度入学生から提供している。[3.3, 3.0]

## <必須記載項目4 授業形態, 学習指導法>

### 【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料 (別添資料 6515-i4-1)
- ・ シラバスの全件, 全項目が確認できる資料, 学生便覧等関係資料 (別添資料 6515-i4-2~4)
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数 (別添資料 6515-i4-5)
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料 (別添資料 6515-i4-6)
- ・ 指標番号5, 9~10 (データ分析集)

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

#### 博士課程前期, 後期の教育方法

- 開設されている科目のうち, 能動的で主体的なアクティブ・ラーニングが生じることを企図して行われている科目が占める割合は2018年度において博士課程前期72.6%, 博士課程後期75.1%, 2019年度において博士課程前期72.6%, 博士課程後期75.1%である (教員からの自己申告による調査)。課題を自ら見つけ出し, それへの対応方法, 解決方法を能動的に深く考える, いわゆるPBL型の授業や学習者参加型の授業形態は, 初等中等教育の優れた教員や広く生涯学習社会に貢献できるリーダーの育成をミッションとして掲げる研究科として重要な特徴と言える。[4.1]

#### 論文等の指導の工夫, 教育・研究の指導体制

- 博士課程前期, 後期の学位論文指導は, 主指導教員に加えて複数名の副指導教員からなる指導教員グループを編成して行っている。博士課程前期では, それぞれの専攻, 専修の担当教員が全員参加する学位論文の中間発表, 発表会 (公開の審査会) が行われており教員相互の連携が図られている。[4.4], [4.5]

#### 大学院生のキャリア開発

- 博士課程前期の選択科目として, 学術文章を書くために必要な技能と, その指導法を身につけることを目的とする「学術文章の書き方とその指導法—大学教員を目指して」を開講している。また, 心理学専攻では, 独自科目と

## 広島大学教育学研究科

して英文での論文作成を実践する「Academic writing in psychology」を開講している。[4.5]

- 博士課程後期の教員養成プレFD科目では、キャリア形成に関わる科目として「大学教授学講究」，「教職授業学講究」，「教職授業プラクティカム」等の科目を設け，学部の教員養成系科目の授業補助や授業の立案や運営などの実践活動に関わることを通して，大学教員としての実践的力量形成が図られている。[4.5]

### <必須記載項目5 履修指導，支援>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料 6515-i5-1）
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料 6515-i5-2）
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料 6515-i5-3）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 全専攻，専修において，1年生全員を対象に履修ガイダンスを実施し履修指導を行っている。特に，専修免許を希望する学生には，免許取得のための履修ガイダンスを実施している。[5.1]
- 教員組織として就職専門部会を設け，同窓会と連携して主に教員採用に関わる情報提供を行っている。また，各プログラムで，「就職指導講話」等を実施しており，毎年複数名の講師を招聘している。職種の内訳は教員採用試験合格者，一般企業，公務員である。様々な職種について学ぶ機会を提供することが，学習意欲を高め，進路を決めるための指針となっている。[5.1, 5.3]
- 『教育学部後援会（保護者会）』の支援を受けて就職情報資料室を設置し，教員採用の情報提供，一般企業，公務員等の採用情報提供，学生の個別相談，個別指導を行っている。同資料室は，最新の採用情報を収集提供するとともに，2名の専任の教員による就職に関する様々な悩み事の個別相談や質問への対応，エントリーシートの添削や面接，グループディスカッションの指導なども行われている。[5.3]（別添資料 6515-i5-4）
- 東広島市教育委員会と連携して教職インターンシップを実施している。小学校，中学校の授業や学校行事への参加及び教師の行う様々な業務のアシスタントを行うことを通して授業づくりや生徒指導，学級経営，校務などについて体験的に学ぶことができる仕組みを構築している。参加者の主体は学部生であるが，2016年には2名の博士課程前期学生が参加している。[5.3]
- 学外施設，研究科附属施設を活用してキャリア形成支援が行われている。特徴的な事例として2件掲載する。
  - ・ 特別支援教育学専修では，広島中央特別支援学校に大学院生を月に一度派遣し，授業見学や校務の補助を行うことで理論と実務の架け橋となる取組

## 広島大学教育学研究科

みを実施している。また、研究科附属の特別支援教育実践センターでの障害児に対する特別支援教育の実践や教育相談に大学院生を参加させ、同センターを活用した科目を設定するなどして、実践的に学ぶ機会やカリキュラムを充実している。[5.1, 5.3] (別添資料 6515-i5-5)

・心理学専攻では、研究科附属心理臨床教育研究センターを活用して大学院生の心理臨床の実習・訓練を行っている。同センターは、地域に開かれた教育相談施設である一方で大学院生の臨床実習の場として活用されている。大学院生は、心理臨床の指導教員のスーパーバイズを受けながら、相談員としてカウンセリング・プレイセラピー等の心理相談活動を行い、地域に貢献するとともに、臨床心理士や公認心理師として必要な資質を高めている。

[5.1, 5.3] (別添資料 6515-i5-6)

### <必須記載項目 6 成績評価>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準 (別添資料 6515-i6-1)
- ・ 成績評価の分布表 (別添資料 6515-i6-2)
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料 (別添資料 6515-i6-3)

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○ 各専攻、専修のカリキュラムは、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーに明示した教育目標にしたがって構成されている。学修成果の評価は、カリキュラムの教育目標、科目の到達目標に準拠した目標準拠型の評価がなされている。カリキュラムや科目のシラバスは、各専攻、専修のプログラム委員会によって毎年、自己点検評価が行われ、改善が図られている。

[6.1]

○ 成績評価は目標準拠型で行われ、その方法は、各科目のシラバスに明示されている。学習成果は、科目毎の評定、到達度、プログラムにおける目標達成度等が学内システム「広島大学学生情報の森(もみじ)」により学生に開示される。成果は指導教員と共有され、履修指導、学習相談に活用されている。[6.2]

### <必須記載項目 7 卒業(修了)判定>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 修了の要件を定めた規定 (別添資料 6515-i7-1)
- ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業(修了)判定の手順が確認できる資料 (別添資料 6515-i7-2~3)
- ・ 学位論文の審査に係る手続き及び評価の基準 (別添資料 6515-i7-4~5)
- ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料 (別添資料 6515-i7-2~3)

## 広島大学教育学研究科

- ・ 学位論文の審査体制，審査員の選考方法が確認できる資料（別添資料 6515-i7-4, 6515-i7-6）

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 各専攻・専修では，修士論文テーマ発表会や中間発表会を実施し，修了年次には指導教員グループによる審査に加えて，専攻，専修の担当教員による審査会を行っている。[7.1, 7.2]
- 博士課程後期では，「博士課程後期の研究スケジュール（指針）」に定めたスケジュール，手順に従い，博士学位論文の審査を行っている。（学生便覧 P92「博士課程後期の研究スケジュール（指針）」）[7.1, 7.2]
- 専攻・専修によって独自の評価・判定の方法を行っている場合がある。その1つとして造形芸術教育学の特徴的な事例を記載する。

造形芸術教育学では，他の専攻・専修と同様に大学院博士課程前期では複数指導体制により主査・副査で指導・評価を行い，それらの適切性について専修の教員全体で検討し確認している。さらに，修了時に広島県教育委員会，県内マスコミ機関等の後援を受け，広島県立美術館において修了制作展及び論文発表会を開催している。修了制作展では，作品を展示する以外にも，学生（出品者）自身によるギャラリートーク（作品解説）を実施し，多くの来館者に対して，研究の成果を発表している。論文発表会は，論文審査会とは別に県立美術館講堂で開催し，広く社会に対して公開するもので，多くの聴衆が集まっている。[7.0]

### <必須記載項目8 学生の受入>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 6515-i8-1）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 6515-i8-2）
- ・ 指標番号1～3，6～7（データ分析集）

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 多様な学生の入学促進のため，特別聴講学生「広島大学森戸国際高等教育学院3+1プログラム」等や外国人研究生（学部・大学院）等の受入れを拡大しており，それらの研究生から大学院に進学する学生が増加している。留学生の割合は博士課程前期では2016年度16.1%から2018年度22.5%に，博士課程後期では2016年度15.7%から2018年度17.9%に増加している。  
[8.1]
- 教育学研究科では，入学定員に対する入学者数は博士課程前期，博士課程後期ともに，過去3年間定員を充足している。特に中央教育審議会において



## 広島大学教育学研究科

博士課程への進学率の減少が指摘されている中で、適切な教育環境の保持及び定員管理により、入学者に適正な修学環境を提供している。 [8.2]

### <選択記載項目A 教育の国際性>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料 6515-iA-1）
- ・ 指標番号 3, 5（データ分析集）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学で2016年度に新たに開始された留学生の受入れ制度「広島大学森戸国際高等教育学院3+1プログラム」での留学生を教育学部において積極的に受け入れていることに伴い、本プログラム修了後に大学院教育学研究科の外国人研究生に進学し、さらにその後博士課程前期に進学する学生も増加してきている。進学者数は、2017年度2名、2018年度14名、2019年度10名であり、教育学部の3+1プログラムの取組みは大学院における優秀な留学生の獲得につながっている。[A.1]
- 教育学部・教育学研究科独自に設立したGreen Wing 奨学金等を活用して、海外で開催される国際学会での発表要する旅費の支援を拡充したことにより、大学院生による海外での学会発表件数が2016年30名から2019年46名へと増加している。[A.1]
- 2016年4月より、大学院博士課程前期に、国際バカロレア校やインターナショナルスクールの教員に求められる資質や能力を育成することを目指す「グローバル教員養成プログラム」を学位プログラムとは独立して設置している。グローバル化が進む現代社会において、教員には、グローバルマインドの育成の力量、また、スーパーグローバルハイスクールや国際バカロレア校の増加に伴い、語学力に加えて論理的な思考力・判断力・表現力・問題解決力などの資質や能力を身に付けさせる指導力がより一層求められる。この要請に応えるために、プログラムは基礎科目群『教育の原理と方法』『言語と認知能力の発達』、専門科目群『教育カリキュラム・教材開発』『指導・評価の現状と課題』、実践系・実習系科目群『国際バカロレア観察実習』『国際バカロレア教師活動』等から構成され、すべての授業で英語を取り入れ、日英両言語のバランスのとれた運用能力の向上を目指している。2016年度は4名、2017年度は2名、2018年度は4名、2019年度は2名が本プログラムを履修している。[A.1]（別添資料6515-i3-5）（再掲）
- 海外の提携校と連携した授業を開設している各専攻・専修がある。例えば、学習開発学専攻カリキュラム開発専修では、以下のような授業を実施した。
  - ・ 「体験型海外教育実地研究」では、提携校である米国イーストカロライナ大学との連携により、現地の小・中学校での授業実践体験を通してグローバルな資質の育成を図った。参加者は、2016年度7名、2017年度12名、2018年度4名、2019年度4名である。
  - ・ 「カリキュラム開発特論II b」, 「カリキュラム開発セミナーII b」では、海外の日本人学校の実態分析と授業開発を進め、2018年に1名が

## 広島大学教育学研究科

ドイツのデュッセルドルフ日本人学校で2度の授業実践インターンシップに参加した。

- ・「カリキュラム開発セミナーⅦa」では、2017年より、米国インディアナ大学、並びに日米の小学校との連携により、国際協働による授業づくりを実際に行う上で必要となる知識と技能の向上を目指し、ウェブ会議による図画工作科の授業検討会を英語で行っている。協力校は、シカゴ大学実験学校、インディアナ州ブルーミントン市グラントビュー小学校等である。2017年度2名、2018年度5名、2019年度2名の学生が本科目を履修している。[A. 1]

### <選択記載項目B 地域・教育委員会・附属学校との連携による教育活動>

#### 【基本的な記載事項】

(特になし)

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 広島県教育委員会との連絡協議会を毎年開催し、連携を図っている。[B. 1]
- 地元自治体（東広島市教育委員会）との連絡協議会を毎年開催している。[B. 1]
- 東広島市教育委員会との共催で、教員研修に係る「連携・教育フォーラム」を毎年実施し、現職教員の資質向上ならびに参加する学部生・院生の資質向上、教員志望意欲の涵養に役立っている。[B. 1]
- 各専攻・専修で、教育委員会主催、共催の行事等、及び連携事業を行っており、主要な事例は次のとおりである。
  - ・広島大学が2017年度まで取り組んでいたCOC事業、及びその継続事業として、東広島市教育委員会、東広島市福祉課、附属東雲中学校との連携事業を実施している。東広島市教育委員会、附属東雲中学校とは、特別支援学級生徒が、広島大学に来学して行う清掃、図書館事務等の職場体験事業のサポート（年間2期開催）、東広島市教育委員会から派遣要請のあった市内の小中学校にボランティア学生を派遣して、支援の必要な児童生徒の学習や生活場面での支援を行う「学校サポーター」（通年）、子ども福祉課との連携として定期健診において「要経過観察」となった乳幼児とその保護者に対して子育て支援を行う、子育て支援事業（「のびのびくらぶ」（年3回）などである。附属東雲中学校とは、上記と同様の「職場体験学習」の提供（2期）を大学で行っている。[B. 1]
  - ・広島県教育委員会、東広島市教育委員会等の後援を受け、広島県立美術館、東広島市芸術文化ホールくらら等において修了制作展及び論文発表会を開催している。修了制作展では、作品を展示する以外にも、学生（出品者）自身によるギャラリートーク（作品解説）や論文発表会を実施し、多くの来館者に対して研究の成果を発表している。[B. 1]
  - ・研究科附属センターの活動として、特別支援教育センターでは、広島県内の教育委員会と連携し、大学生ボランティアを小・中学校に派遣する「特別支援教育学生サポーター派遣事業」や、広島県内における出張教育相談会などを行っている。また、附属教育実践総合センターでは、広

## 広島大学教育学研究科

島市・東広島市教育委員会との連携のもと、学習面でのつまずきや不登校・いじめ・発達障害などの社会情緒面での課題を抱える地域の小学生・中学生を対象に、個別・集団での支援活動を行う「にこにこルーム」の実践や、来所型の臨床相談活動に参加させている。実践的に関わることで、支援者としての資質の育成、向上に取り組んでいる。

[B. 1]

### <選択記載項目C 教育の質の保証・向上>

#### 【基本的な記載事項】

(特になし)

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 教育学部（教育学研究科）では、授業参観FDを年2回継続的に開催している。構成員による授業公開と授業修了後に実施する研究会において、授業者と参観教員間で授業内容や方法等についての課題や授業改善の進展に向けた意見交換を行い、教員の授業の質の向上に取り組んでいる。参加者は、2016年度57名、2017年度48名、2018年度は44名であった。[C. 1]（別添資料6515-iC-1）
- カリキュラム・マネジメントを担う専攻・専修の教員会議において、各授業の学生による授業改善アンケートの結果や学生の成績評価等に基づくPDCAサイクルによるカリキュラムの評価、改善を行い、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標の達成を図っている。[C. 2]

### <選択記載項目D リカレント教育の推進>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所（別添資料6515-iD-1）
- ・ 指標番号2，4（データ分析集）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 教育学部・教育学研究科では、社会人向けプログラムとして下記の各種講習を毎年開催している。[D. 1]
  - ・ 教員免許保持者を対象として、2009年4月から実施された教員免許更新制に伴って必要となった教員免許更新講習を実施している。
  - ・ 教員免許を有する者を対象とする特別支援学校教諭免許認定講習、及び教員免許状を有する現職教員を対象とする上位の免許や他種類の免許取得のための免許法認定講習を開設している。
  - ・ 学校図書館法の規定に基づき、学校図書館の専門的職務に携わる司書教諭を養成するため、文部科学大臣の委嘱を受けて実施する学校図書館司書教諭講習を開設している。

## 広島大学教育学研究科

- ・ 中国五県の教育委員会を通して申込みのあった受講者（受講定員 40 名）を対象に，社会教育法の規定及び社会教育主事講習等規程に基づく社会教育主事講習を実施している。
- 附属教育実践総合センターを中心とする事業として，東広島市教育委員会との連携のもと，小学生（4～6 年生）を対象に農作業や工作，お祭りへの参加などの様々な活動を行うフレンドシップ事業「ゆかいな土曜日」を実施している。約 70 名の小学生が毎月 1 回の頻度で半年間を通して継続的に参加する活動は，児童や保護者からの評価も高い。また，広島市・東広島市との連携のもと，学習面でのつまずきや不登校・いじめ・発達障害などの社会情緒面での課題を抱える地域の小学生・中学生を対象とする個別・集団での支援活動を行う「にこにこルーム」を開設している。子どもたちが自身の課題の解決に結びつくだけでなく，相談員として参加する学生にとっても，様々な困難を抱える子どもたちの実態を知り，その支援の方策を学ぶ機会となっている。 [D. 1]

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

### <必須記載項目1 卒業（修了）率，資格取得等>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内修了率（別添資料 6515-ii1-1～2）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内修了率（別添資料 6515-ii1-3～4）
- ・ 博士の学位授与数（課程博士のみ）（入力データ集）
- ・ 指標番号 14～20（データ分析集）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 大学院生による研究成果の発表は多数行われているが，国内，国際学会等における研究発表，学会誌論文に対する2016～2018の期間中の発表賞，論文賞等の受賞状況は以下の通り。[1.2]

2016年度

博士課程前期	学会発表に対する受賞2件
博士課程後期	論文に対する受賞4件（そのうち1件は，国際学会）

2017年度

博士課程前期	論文に対する受賞1件（そのうち1件は，国際学会） 学会発表に対する受賞1件
博士課程後期	論文に対する受賞4件 学会発表に対する受賞3件

2018年度

博士課程前期	論文に対する受賞1件 学会発表に対する受賞1件
博士課程後期	論文に対する受賞1件 学会発表に対する受賞1件

### <必須記載項目2 就職，進学>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）
- ・ 教員就職率（教員養成課程）（文部科学省公表）
- ・ 正規任用のみの教員就職率（教員養成課程）（文部科学省公表）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 博士課程前期修了者の進路決定状況は概ね良好である。[2.1]

以下，各専攻について記載する。

- ・ 学習開発学専攻では，修了生の多くが専修免許を取得して教育職についている。また，教科教育学専攻では，専修によって変動はあるが，専修免許を取得して教育職につく修了生が多く，また博士課程に進学して研

## 広島大学教育学研究科

究を深めることを選択する修了生の比率も高く、アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに掲げた内容を実現できている。

- ・日本語教育学専攻における2016年度の修了者23名（この内、留学生11名）の進路を見れば、留学生の内訳では、帰国した5名のうち2名が大学教員、日本国内に残った6名のうち2名が博士課程後期進学、4名が一般就職し、日本人修了者12名の内訳では、6名が大学教職員（うち、1名は海外の大学で日本語教師）、高校教員3名、2名が一般就職である。年度による、ある程度の変動はあるが、概ねアドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに掲げた内容を実現できている。
- ・教育学専攻では、前期課程修了者の1/2以上が博士後期課程に進学しており、教育学の専門家、研究者の養成を掲げたアドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを実現できている。
- ・心理学専攻については、就職・進学状況は良好であり、心理臨床学コースでは、修了者の臨床心理士合格率が毎年90%を超え、臨床心理士として就職を希望する者の採用状況を良好である。標準コースともども後期課程への進学率も高い。
- ・高等教育学専攻では、修了生に占める外国人留学生の比率が高く、後期進学の他に日系企業へ就職する者もいる。社会人大学院生（大学職員）は修了後、専門性を生かして国際担当や企画の部署に配置されることが多い。

○ 博士課程後期修了者の研究職、大学教員への採用状況は良好である。

また、心理学分野については、在学生や修了時に日本学術振興会特別研究員に採用され、教育学研究科で研究を継続するものが毎年いる。[2.1]

### <選択記載項目A 修了時の学生からの意見聴取>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料6515-iiA-1)

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○ 各専攻・専修で毎年次、修了時アンケートを実施している。修了生からの評価は概ね高い。[A.1]

以下に、専攻・専修の修了時アンケートに対する記載内容を例示する。

- ・ 造形芸術教育学専修

2017年、2018年度に実施した大学院生を対象とした修了時アンケートにおいて、質問事項(10-1)「指導教員(正・副)の支援(相談等)は充実していた」、(8-3)「特別研究(修士論文)の指導は充実してい

## 広島大学教育学研究科

た」では、肯定的な意見が 100%を占めており、教育効果が上がっていることが伺える。

- ・教育学専攻

2018 年度に実施した修了時アンケートでは、「大学院で学修したことは就職（進学）先を決める際に役立った」に対して、肯定的評価が 6 割であり、博士課程後期進学者が修了生の半数を超えている。

### <選択記載項目 B 修了生からの意見聴取>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 修了後、一定年限を経過した修了生についての意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 6515-iiB-1）

#### 【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

特記事項なし

### <選択記載項目 C 就職先等からの意見聴取>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 就職先や進学先等の関係者への意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 6515-iiC-1～3）

#### 【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 広島県教育委員会の協力を得て、卒業生（修了生）のうち、広島県及び近県で幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校に初任教員（採用後 4 年以内）として勤務する卒業生について、その資質や能力に関する評価を所属学校長に求める評価アンケート、教員養成に関する要望の自由記述調査を実施した。調査は、2019 年 2 月～3 月に実施した。卒業生、修了生が初任教員として勤務する 199 校に依頼し、89 校からの回答を得た。評価の対象となった学部卒業生は 67 名、大学院修了生は 45 名である。評価項目は、服務規律や授業、生徒指導、学級経営の実践力、同僚教員や関係機関、保護者との連携などである。

対象となった大学院修了の初任教員は、小学校（12 名）、中学校（8 名）、高等学校（23 名）、特別支援学校（2 名）であり、学部卒と比較して高等学校教員の割合が高い。所属学校の評価は学部卒と同様に概ね良好であり、生徒指導や授業の実践力、服務、職場での上司や同僚とのコミュニケーション力について高く評価された。その中でも、学部卒と比べて、授業実践力、職場でのコミュニケーション力が高く評価されている。比較的評価が低かった項目は学部卒と同様に関係機関や保護者との連携であり、大学院における教員養成における今後の課題が示唆された。[C.1]

**<選択記載項目 Z その他>**

**【基本的な記載事項】**

- ・ 学生表彰件数を確認できる資料（別添資料 6515-iiZ-1）

**【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】**

- 複数の学生が、専攻する学位プログラムの教育内容（音楽、体育、技術情報など）に関連して学外の試合やコンクールで毎年、優秀な成果をあげている。特に顕著な成果をあげた学生に対して、学長表彰、副学長表彰等の表彰により、それらのプログラムに属する学生の学習意欲、上達意欲の涵養に努めている。 [Z. 0]



【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標 番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍 状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する 科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数 (常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業 データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路 データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 部分の指標（指標番号8，12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。